

## 1歳6か月から2歳までの子どもの姿

	身体の育ち	こころや言葉の育ち
1歳代後半 自我が芽生え、自立に向けた一歩を踏み出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体に筋肉がつき、締まってくる</li> <li>・歩行が安定する</li> <li>・小走りができる</li> <li>・手先が器用になり、積木を積んだり、スプーンを使うことなどができる</li> <li>・コップで飲み物が飲める</li> <li>・鉛筆やクレヨンでなぐり書きをする</li> <li>・階段を上ることができる</li> <li>・ボールをけることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なお手伝いをする</li> <li>・大人の言うことがかなり理解できる</li> <li>・大人の顔をうかがいながら、いたずらしたり、大人のしぐさをまねる行動がみられる</li> <li>・「ワンワン」など意味のある単語を話す</li> <li>・「ちょうだい」「どうぞ」といった言葉のやりとりが楽しめるようになる</li> <li>・友達や周囲の人への興味や関心が高まり、近づいていこうとする</li> </ul>
2歳代前半 自己主張が強くなり、イヤイヤ期のピーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る、ジャンプする、台によじ登るなどの動きが活発になる</li> <li>・腕の力がつき、鉄棒にぶら下がる</li> <li>・身体のバランス機能が高まる</li> <li>・上手に物を投げることができる</li> <li>・おしっこをした感覚がわかる (動きが止まる、もじもじするなどのサインを出すお子さんも)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でやりたい気持ちが強くなるが、思い通りにいかない「いや!」「だめ!」と連発する</li> <li>・「ブーブーきた」など二語文を話す</li> <li>・物には名前があることがわかり、「これなあに?」と質問が多くなる</li> </ul>

※あくまでも目安です。発達に適した環境を整え、その子のペースで次の段階へ進むのを見守りましょう。

### ♡ 自己主張の始まり=自立心の芽生え

自分の要求がはっきりし、「自分でやりたい」という気持ちが強くなります。その分、気に入らないことや思い通りにならないことにいらだち、かんしゃくを起こしたりするようになります。見かねて大人が手伝おうとすると、今度は「ジブンデ!」と反抗するのです。そんな時は、子どもにいくら言い聞かせても叱っても話が入りません。対応に悩むところですが、芽生えた自立心は尊重したいものです。

#### ◎ 子どもの気持ちをわかりやすい言葉で代弁してあげる (共感)

「いやだよ、ブランコ乗りたかったね」など

#### ◎ 別の選択肢を提案して、本人に選ばせる

「どっちがいい?」「どっちからする?」

#### ◎ 子どものプライドをくすぐるような声掛けをする

「やってくれると嬉しいな」

「これができたらカッコいいね」など

#### ◎ できたら思いきりほめる。

少しくらい間違ってもよしとする

こうした対応で子どもは達成感や自信を持って、いらだちやかんしゃくが収まってきます。待ってられない時、どうしてもできない時などには、「どれどれ、見せて」と言いながら、さりげなくサポートをします。



## 「ほめる」を習慣にして心の土台を育てよう！

「自分でできた」という成功体験をたくさん経験すると、「自分にはいろいろなことができるんだ」という自信を持てるようになります。大切なことは、できた、できなかった、ではなく、「やってみよう」と心を動かしたことです。できていなくても「よくやったね」とほめてあげましょう。

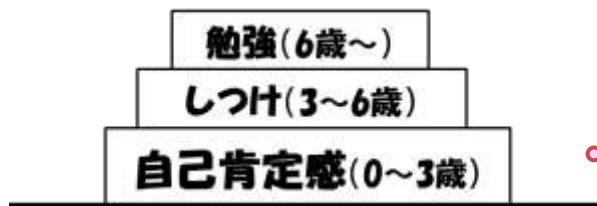
たくさんの経験を通して自我を育てていくお子さんにとって、自我と一緒に大切に育てたいのが「自己肯定感」です。自己肯定感とは、自分自身に価値があるという肯定的な感情です。

自己肯定感のある子は、目の前の課題にも意欲的にチャレンジしていく力を持っています。

お子さんの「前向きに生きる力」の土台は自己肯定感なのです。

ほめることは、相手のよい行動に気付いていることを知らせることです。「感謝する」、「励ます」のも、ほめることと同じです。おうちの人に「ほめてもらう・認められる」体験を積み重ねていくことで、子どもの心はぐんぐん育まれていきます。お父さんやお母さんが嬉しいなと思ったときに、具体的に良かったことをほめてあげましょう。言葉で褒められるのが嬉しい、頭をなでられるのが好き、大げさに褒められるのが嬉しい・・・などお子さんに合わせた褒め方を探してみましょう。

- ・私は、ほくは、大切な人間だ
- ・みんなに愛されている
- ・生まれてきてよかった
- ・人の役にたっている



前向きに  
生きる力



## ほめ上手へのポイント♪

### \* 子どものいいところ探しをしてみましょう

「挨拶ができた」・「欲しいものを指でさして教えてくれた」など、大人からすると当たり前に思えるかもしれない「うれしいな」・「よかったな」と思う行動にも注目してみましょう。



### 上手な褒め方

- ① 良い行動が見られたら、その時に
- ② 視線を合わせて
- ③ 近づいて、子どもと同じ目線で
- ④ 感情をこめて
- ⑤ 子どもが良い行動をし始めた時に1回、やり終えた時にもう1回ほめる
- ⑥ 具体的に何がよかったか伝えてあげる